



アメリカザリガニの被害と駆除 実証調査で得た成果と課題

環保協の
環境生活
センター

(44) 環境保全課

皆さま、「ザリガニ」はご存じでしょうか？「田んぼや用水路で見たことがある」「子ども頃、スルメを餌にして釣りをした」といった経験のある人が多いと思いますが、西日本に広く生息している「ザリガニ」は、実は全て外来生物の「アメリカザリガニ」です。昭和の初め、北アメリカから神奈川県に持ち込まれ、強い繁殖力により、その後全国に広まりました。

食欲が極めて旺盛なアメリカザリガニは、同居する水生動物や水草を食べつくします。希少な動植物の壊滅など、各地で甚大な生態系被害が生じていることから、令和5年6月、

また、農業被害も各地で顕在化しています。イネの苗やジュンサイを食害する、水田のあぜに穴をあけて水を流出させ、崩壊させる、ため池の堤体を穴だらけにして崩落させるなどの被害が知られて

刻です。このような背景から、農林水産省・中国四国農政局では、山口県のため池において、アメリカザリガニの駆除手法の検討や駆除効果を検証するための実証調査を開始しました。環境生活センター環境



観察会でアメリカザリガニの解説を熱心に聴く子どもたち

駆除のため採捕したアメリカザリガニ（上）、アメリカザリガニの穴によって崩落したため池の堤体（下）

食品ロス削減で脱温暖化大作戦

知識の普及と行動変容を目指して

福山市公衛協西部ブロック会は、5月17日の定時総会で「食品ロス」をテーマとした講演会を行い、当協会職員が講師を務めました。

講演会では、クイズを通じて食品ロスが世界的な課題になっていることや、日本国内の食品ロスの状況を知ること、食品ロスについての理解を深めてもらいました。また、食品ロスを削減することは、廃棄に伴うエネルギー消費量の削減につながり、地球温暖化防止にもつながることを理解いただきました。

最後に、冷蔵庫の整理整頓の重要性と、ノベルティとして配布した食品ロス対策マグネットの活用方法を伝えました。食品ロス対策マグネットは、冷



①福山市西部ブロック

蔵庫内の食品を見える化する事で食品ロスを減らす工夫ができるグッズで、台紙には食品保存の豆知識が記載されています。今日からできる食品ロス削減のきっかけ作りにぜひご活用ください。

当協会では昨年度に引き続き、全県共通事業重点メニューとして、食品ロスを削減し、地球温暖化防止に取り組む事業「食品ロス削減事業～食品ロス削減で脱温暖化大作戦～」を提案しています。今年度は、より多くの方々に食品ロスの現状を知ってもらい、行動変容のきっかけを作ることをねらいに啓発活動に力を入れて取り組んでいます。

申請に応じて公衆衛生推進委員が集まる場や、公衛協が主催する研修会で食品ロスをテーマにした学習会に講師を派遣し、食品ロス削減につながる行動変容を促すお手伝いをしています。市町レベルだけでなく、支部や地区・学区など、小さな活動単位での公衛協活動でもご活用いただけますので、ぜひお声がけください。

(地域活動支援センター)



マグネットを活用して冷蔵庫内を見える化

保全課では、令和4年度・令和6年度にかけて本調査に携わっています（令和7年度も調査継続中）。調査ため池は、山奥にある堤体長20m×奥行き25mほどの小さなため池です。タモ網採集や餌を仕込んだカゴ網、人工水草、人工巢穴などのトラップを用いた採捕を定期的に行い、これまで約7千匹を駆除しました。

その結果、完全な根絶には至っていないものの、アメリカザリガニの低密度化を実現しました。駆除前はアメリカザリガニ以外の生きもの、地域の人たちに、駆

除による生態系と農業水利施設の保全活動を続けてもらうことが期待されるため、本調査では普及啓発の一環として、生きもの観察会

の開催や駆除効果などをまとめたパンフレット・クリアファイルの作成、配布を行っています。観察会には地元の子どもたちが毎年

のように参加してくれています。年々理解を深めていただいており、保全活動の将来を担ってくれることでしょう。（環境保全課 中西毅）



アメリカザリガニの被害と駆除効果についてまとめたクリアファイル